ヲ、人近ニハ見苦シ、今少シ入テコソト云ケレバ深ク入ニケリ、

〔今昔物語二十九〕具レ妻行二丹波國一男於二大江山一被レ縛語第廿三

今昔、京ニ有ケル男ノ、妻ハ丹波ノ國ノ者ニテ有ケレバ、男其ノ妻ヲ具シテ丹波ノ國ヘ行ケルニ、妻ヲバ馬ニ乘セテ、夫ハ竹蠶簿（エビラ）箭十計差タルヲ搔負テ、弓打持テ後ニ立テ行ケル程ニ、大江山ノ邊ニ若キ男ノ太刀計ヲ帶タルガ、糸强氣ナルニ行烈ヌ、（略）○中而ル間晝ノ養セムトテ、藪ノ中ニ入ルヲ、今ノ男人近ニハ見苦シ、今少シ入テコソト云ケレバ深ク入ニケリ、

夜食

〔書言字考節用集六服食〕夜食（ヤショク）

〔俚言集覽世〕夜長　夜食を夜長といふ

〔松屋筆記三十八〕お夜長の御膳

婦女の詞に、夜食をオヨナガといへり、こは禁中にて大床子の御膳のおろしを、女中の夜食にくふを夜長といへり、これより出たる詞也、

〔嬉遊笑覽十上飲食〕著聞集に、左京大夫顯輔卿のもとへ、或人ことをしておくりたりけるに、櫻花かざしなどしたりけるを、僧どもおほらかにくらひける云々とあり、此のことゝ云は、僧の夜食なり、無住が雜談集三に、（略）○中法師原坂本へ下りぬれば、夕方寄合て事と名づけて、我々世事して食すと云りとあり、世上の俗は、三度して夕食あれば、これを世事と云にや、事とは世字を省きて云るなるべし、

間食

〔延喜式二十六主税〕凡陸奥國兵士間食料米二千八百八十斛、（人別八合）（日）割二年中所レ輸租穀內一毎年充レ之、

〔延喜式三十織部〕織手共造機工卅五人、各給レ粮日黑米二升、間食四合、薄機織手五人、各日白米一升六合、絡絲女三人、各日米一升五合、

〔延喜式三十九內膳〕擇レ薑女孺單五十人、女丁十二人半給二間食一、（人別八合）（日）